

2009/2010 スピードスケート
国際競技会派遣選手 選考基準

平成21年6月12日
(財)日本スケート連盟

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、選考委員会にて選考し、理事会で最終決議され承認される。

【第21回オリンピック冬季競技大会（2010/バンクーバー）】

参加枠：以下によって制限される

1. ISU ルール 209 条によって決定される参加資格数
2. オリンピックに関する最新 ISU コミュニケーションの詳細
3. JOC からスケート連盟に与えられる出場選手枠数

1. 第1次内定者の選考

W 杯前半戦 5 大会（ソルトレイク大会まで）の成績を基に選考する。

■ 第1次内定者数

各距離の参加枠数の半数以下とする。

4名するとき2名、3名するとき1名、2名するとき1名、1名の場合は0名とする。

■ 選考基準

(1) ワールドカップ前半戦 5 大会(ソルトレイク大会まで)のいずれかの大会で3位以内に入った選手は、その3位以内に入った種目において第1次内定とする。

※ 但し各種目で、第1次内定者数を超えた場合の優先順位は以下の通りとする。

- ① 1位の回数が多い選手
- ② 2位の回数が多い選手
- ③ 3位の回数が多い選手

①～③が同回数の場合は、4位以下で、上位順位の回数が多い選手を優先する。

(2) (1)の基準を満たす選手が第1次内定者数に満たない場合、ワールドカップ前半戦の各種目のポイントランキングで、8位以内に入った選手のうち、各種目1名を第1次内定者に加える。

※ この対象者が複数名いた場合の優先順位

ワールドカップ前半戦実施総レースのうち各種目、最低順位のポイントを除いて再計算されたポイントランキングの最上位者を優先する。

■ バンクーバーオリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会（オリンピック選考競技会）への参加

※ 第1次内定選手であってもオリンピック選考競技会への参加を義務付ける。

2. 最終選考について

すべての距離の選考は **W 杯前半戦・オリンピック選考競技会の成績** を基に行う。

(1) バンクーバーオリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会
(平成 21 年 12 月 28 日～30 日 長野市)

- ・ 500m は 2 本の合計タイムの順位を基に選考する。
- ・ 1000m、1500m、3000m、5000m は順位を基に選考する。
- ・ 500m は 2 位まで、1000m、1500m、3000m、5000m は優勝者を選考する。

(2) 1500m 以上の距離の選考

- ・ オリンピック選考競技会で優勝者以外の選手に於いては、チームパシュートの編成を考慮し W 杯前半戦・オリンピック選考競技会の成績を基に選考委員会で選考する。

■代表選手の発表

オリンピック選考競技会終了後に行なう。(平成 21 年 12 月 30 日 長野市)

3. 上記選考基準では判断できない場合は、選考委員会の協議によって選考する。

【09/10 スピードスケート国際大会】

1. W杯前半戦：ベルリン・ヘレンベーン・カルガリー・ソルトレイク大会（短距離）

- ① 昨年実績により以下の種目の選手を内定とする。
 - ・ 吉井小百合：500m、1000m
 - ・ 長島圭一郎：500m、1000m
 - ・ 加藤 条治：500m
 - ・ 及川 佑：500m
- ② 女子 500m（参加枠 5 名）の選考は全日本距離別選手権にて吉井選手を除く上位選手 3 名を選考する。
- ③ 女子 1000m（参加枠 4 名）の選考は全日本距離別選手権にて吉井選手を除く上位 2 名を選考する。
- ④ 男子 500m（参加枠 5 名）の選考は全日本距離別選手権にて長島・加藤・及川選手を除いた上位選手 1 名を選考する。
- ⑤ 男子 1000m（参加枠 3 名）の選考は全日本距離別選手権にて長島選手を除いた上位選手 1 名の選手を選考する。
- ⑥ 残りの出場枠については、原則各距離の順位を重視し、尚且つオリンピック出場枠などの観点から検討し選考する。

2. W杯前半戦：ベルリン・ヘレンベーン・ハーマー・カルガリー・ソルトレイク大会（中長距離）

- ① 昨年実績により以下の種目の選手を内定とする。
 - ・ 田畑 真紀：1500m
 - ・ 穂積 雅子：3000m
- ② 女子 1500m（参加枠 4 名）の選考は全日本距離別選手権にて田畑選手を除いた上位 2 名を選考する。
- ③ 女子 3000m（参加枠 5 名）の選考は全日本距離別選手権にて穂積選手を除き上位 3 名を選考する。
- ④ 男子 1500m（参加枠 2 名）の選考は全日本距離別選手権にて 1 位の選手を選考する。
- ⑤ 男子 5000m（参加枠 3 名）の選考は全日本距離別選手権にて 2 位までの選手を選考する。
- ⑥ 残りの出場枠については、原則各距離の順位を重視し、チームパシュートの編成・オリンピック参加枠、チームパシュートの観点から検討し選考する。
- ⑦ チームパシュートの編成は、選考された選手の中より選抜してチームを編成する。

※ 内定選手には全日本距離別選手権大会における内定種目出場の義務を負わせない。

3. 世界オールラウンドアジア地区予選会（北海道・帯広）

派遣数：男子 3 名・女子 4 名

- ① 男女ともオリンピックトライアルの 2 種目(男子:1500m、5000m 女子:1500m、3000m)の合計得点の男子 2 位、女子 3 位までの選手を選考する。
- ② 残りの出場枠については、2 種目合計の順位を重視し総合的な観点から検討し選考する。

4. アジア距離別選手権大会（北海道・帯広）

派遣枠：男女各4名

- ① オリンピック選考競技会の大会の結果により、原則オリンピック・世界オールラウンドアジア地区予選会・世界スプリント選手権代表選手及び大学生以外の選手より選考する。

5. 世界オールラウンド選手権大会（オランダ・ヘレンベーン）

アジア枠：男子2名 女子4名

アジア地区予選会で獲得した参加枠によって原則下記の通り選考する。

アジア地区予選会で参加資格を獲得した選手。

但し、3種目合計と男子5000m、女子3000mの成績も考慮する。

6. 世界スプリント選手権大会（帯広）

対象競技会：バンクーバーオリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

参加枠：男子3名 女子4名

- ① 男子2名・女子3名は500m2回、1000mの3種目の合計得点を重視し選考する。
② 残り男女1名については、バンクーバーオリンピックを重視し単種目での成績を考慮し選考する場合もある。

7. W杯後半戦／エルフルト・ヘレンベーン大会（短距離）

- ① W杯前半戦に出場しポイントランキング24位以内に位置している選手を選考する。
② オリンピック選考競技会・W杯前半戦の結果、総合的観点から若干名選考する場合もある。

8. W杯後半戦／ヘレンベーン大会（中長距離）

- ③ W杯前半戦に出場しポイントランキング24位以内に位置している選手を中心に選考する。

下記9. 10. 11のジュニア派遣大会は、ISUジュニアワールドカップコミュニケーション発表後、参加基準などが確定した後選考基準を決定する。

9. ジュニアワールドカップ（アジア地区）

派遣数：男女各5名

10. 世界ジュニア選手権大会（距離別含む）・ジュニアワールドカップ最終戦

派遣数：男女各5名

11. オリンピックオーバル国際競技会／カナダ・カルガリー

派遣数：選手12名（最大枠として）